

2023 年度 自己点検・自己評価報告書

学校法人 21世紀アカデミア
専門学校東京デザイナー・アカデミー

2024 年 4 月 1 日作成

1. 学校の教育目標

●業界で活躍できる人材の育成・輩出

『ゼロからプロになる』ための『人間力』を引き出す

●東京デザイナー学院が求める人物像（アドミッションポリシー）

感動力…感受性を豊かにし、物事に感動できる力を持つ人。感動を伝えることができる人。

チャレンジ…何事に対しても前向きな好奇心を持ち、まずやってみようという気持ちが持てる人

自分らしさ…自分とはどんな人間か、他者とはどこが違うのかを考え、自分らしさをあらゆることに活かせる人

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

●就職

本年度の実績として

- ・ 就職希望率 72.4%
- ・ 就職決定率 90.4%

前年度実績を踏まえた目標

- ・ 就職希望率 95.0%
- ・ 就職決定率 100%

●進級継続

本年度実績として

- ・ 1年次前期から後期へ 95.9%
- ・ 2年次前期から後期へ 94.8%

前年度実績を踏まえた目標

- ・ 1年次前期から後期へ 95%
- ・ 2年次前期から後期へ 90%

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	・学校の理念・目的・育成人材像はさだめられているか	4	3	2
・学校における職業教育の特色は何か	4	3	2	1
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4	3	2	1
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4	3	2	1
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4	3	2	1

① 課題

- 校名変更に伴った学校としての方針や具体的な取り組みについて在校生・保護者レベルまでまだ落とし込めていない
- 学校の理念・目的・育成人材像が学生のニーズにマッチしているか？
- 社会経済のニーズ等を踏まえ学校の将来構想をスタートしたが認知が今後の課題
- 社会経済の動きが早く、ニーズを取り込みきれていない。アカデミアを踏まえた新たな育成人材像を明確化して発信していく必要がある

② 今後の改善方策

- 自校だけでの課題ではないためできることに限りが出てくる状態ではあるが、まずは職員の見識を揃えるところから始める
- HR等で学生に指導をしていくこと、質をあげる事が大切
- 媒体、SNSの積極的活用をして進めてゆく

③ 特記事項

なし

(2) 学校運営

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	・目的等に沿った運営方針が策定されているか	4	3	2
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4	3	2	1
・運営組織や意志決定機能は規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4	3	2	1
・人事、給与に関する規定等は整備されているか	4	3	2	1
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4	3	2	1
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	3	2	1
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4	3	2	1
・情報システム化等による業務の効率化がはかられているか	4	3	2	1

① 課題

- 日々の業務の中で明確に規則化されていないものも多々あり情報システム化になっていないものも多々ありアナログレベルのものが多いため業務効率化は弱い
- 情報システムの導入が遅れている為、アナログでの処理がある（特に出席率）
- 職員の方は情報システムを進めているが出席や成績管理が旧式で進んでいない
- 年間スケジュールは、授業やイベント日程のみが記載されている。準備期間も網羅したチームごとの年間スケジュールがあれば新任職員の理解がはかどる。複数のファイルやシステムへ似たような情報を入力する煩雑な状況を改善させたい。出席管理システムの導入が望まれる
- 学内で使用しているシステムの統一化ができていない。人事評価の規定等が不明瞭になっている

② 今後の改善方策

○現状運用ルールの見直したうえでシステム化に切り替えられるところから即時改善を図る

③ 特記事項 なし

(3) 教育活動

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	・教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	3	2
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているのか	4	3	2	1
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているのか	4	3	2	1
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	4	3	2	1
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等がおこなわれているか	4	3	2	1
・関連分野における実践的な職業教育（産業連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか	4	3	2	1
・授業評価の実施・評価体制はあるか	4	3	2	1
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	3	2	1
・成績評価・単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか	4	3	2	1
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	3	2	1
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	3	2	1
・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4	3	2	1
・関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みがおこなわれているか	4	3	2	1
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	3	2	1

① 課題

- 職員のスキルの向上に繋がる為の研修が必要
- 昨年の課題にすべて同意。その上で、講師単価の低さで専門的な教育人材を取り損ねている実態を感じる
- 教職員の研修が十分にできていない
- マネジメントかスペシャリストのコース選択等、キャリア形成の為に必要な道筋の構築

② 今後の改善方策

- 職員のモチベーションを強化する為にも、検証が必要
- 職員研究時間の確保

③ 特記事項 なし

(4) 学修成果

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	・就職率の向上がはかられているか	4	3	2
・資格取得率の向上がはかられているか	4	3	2	1
・退学率の低減が図られているか	4	3	2	1
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	3	2	1
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	3	2	1

① 課題

- 学校運営のところで課題としてあげたように業務の効率化が履かれていないため退学になりそうな学生へのケアまで手が回せていない印象あり
- 退学率については様々な策を講じているが向上が難しい、引き続き大きな課題として捉えている
- 卒業生の活動を把握できる仕組みがない
- 同窓会組織を運営し卒業生ネットワークを支える専門チーム

② 今後の改善方策

- 現状運用ルールの見直したうえでシステム化に切り替えられるところから即時改善を図り対応時間の確保
- 精神的に悩みを抱えている学生は入学前から問題を抱えている事がほとんど。 今後もカウンセラーと連携して進めたい
- 卒業生の仕事やコピーライト取得のための対外的広報チーム

③ 特記事項 なし

(5) 学生支援

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	3	2
・学生相談に関する体制は整備されているか	4	3	2	1
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4	3	2	1
・学生の健康管理を担う組織体制は整備されているか	4	3	2	1
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
・学生の生活環境への支援はおこなわれているか	4	3	2	1
・保護者と適切に連携しているか	4	3	2	1
・卒業生への支援体制はあるか	4	3	2	1
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	3	2	1
・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みがおこなわれているか	4	3	2	1

① 課題

- 保護者との連携は学科任せになってしまっている。 課外活動自体が殆どない。新規に出来ても支援できる状況ではない
- 課外活動は少ない。卒業生の支援体制は、存在はするが手薄なことが否めない
- 家庭内トラブルを抱えた学生支援

② 今後の改善方策

- 学校として予算配分の優先を決めて早急に改善計画を検討する必要あり課外活動は少ない。卒業生の支援体制は、存在はするが手薄なことが否めない
- クロスオーバーライダーを課外活動として捉え支援できる体制を作って行きたい
- カウンセリングとの連携でどこまで改善を図るか

③ 特記事項 なし

(6) 教育環境

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	3	2
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	3	2	1
・防災に対する体制は整備されているか	4	3	2	1

① 課題

- 学校設備・環境の整備が昨年と比べても大きな改善はできておらず牛歩
- 老朽化の問題はあるが施設・設備はスチューデントエコーで常に対応してきている
- 校舎の老朽化が著しい。神保町校舎の管理責任者が不在
- 防災訓練の定期実施ができていない
- 校舎、教室、機材設備の更新

② 今後の改善方策

- 学校として予算配分の優先を決めて早急に改善計画を検討する必要あり
- 防災体制は校舎ごとに定期的に確認の必要がある
- 学事計画の中に防災訓練の日程を盛りこむ
- 書庫の整備、教室設備の更新等、積極的な予算組

③ 特記事項 なし

(7) 学生の受け入れ募集

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	・学生募集活動は、適正に行われているか	4	3	2
・学生募集活動において、教育効果は正確につたえられているか	4	3	2	1
・学納金は妥当なものとなっているか	4	3	2	1

① 課題

- 年間計画・スケジュールが不十分であり、早期マーケット（高2生）からの募集活動に課題を感じる。当該年度になってからの出願が年間数値の割合を多く占めており早期化にはなっていない。職員間で募集活動へのマインドの温度差あり
- 学納金は競合校より若干高い

② 今後の改善方策

- 高校2年生時からの募集計画を通年通してしっかりと固め場当たりの活動にならないよう改善を図る。人的な課題についてはチーム編成の検討や定期的なコミュニケーションを通じ改善を図る
- 学則に沿った募集定員の策定

③ 特記事項 なし

(8) 財務

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	3	2
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	3	2	1
・財務について会計監査が適正におこなわれているか	4	3	2	1
・財務情報公開の体制整備はできているか	4	3	2	1

① 課題

なし

② 今後の改善方策

なし

③ 特記事項 なし

(9) 法令等の遵守

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	3	2
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	3	2	1
・自己評価の実施と問題点の改善をおこなっているか	4	3	2	1
・自己評価結果を公開しているか	4	3	2	1

① 課題

- 学生情報の管理がアナログな面が多々あり個人情報の管理の危機感は弱い
- 一部、個人情報が学科管理になっている

② 今後の改善方策

- 運用ルールの見直しと情報システム化で管理レベルの水準を上げるよう急ぎ改善

③ 特記事項 なし

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行なっているか	4	3	2
・学生ボランティア活動を奨励、支援しているか	4	3	2	1
・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4	3	2	1

① 課題

- 地域に向けた生涯学習制度の拡充

② 今後の改善方策

- 受付窓口や運営スタッフに広報含めた専門メンバーが必要

③ 特記事項 なし

(11) 国際交流 (必要に応じて)

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	・留学生の受け入れ・派遣について戦略を持っておこなっているか	4	3	2
・留学生の受け入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がおこなわれているか	4	3	2	1
・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	4	3	2	1
・学修成果が国内外で評価される取り組みをおこなっているか	4	3	2	1

① 課題

- 留学生数が増えており留学生人数に対しスタッフ数が足りていない
- 留学生在籍者の数に応じた教員数の確保

② 今後の改善方策

- 留学生担当職員の増加
- 留学生に対する入口、在籍、出口の追跡業務増。スタッフ増員、専門職窓口の必要性

③ 特記事項

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

1) 教育理念・目標

新年度かの法人名変更・学校名変更に伴い、教育理念も変更になる。詳細は既に法人の HP で公開されているが、わかりやすく端的に言えば「実社会で活躍する人材」であり、これをあらためて職員間に浸透させる必要がある。

2) 学校運営

アナログなシステムについては、早急な改善が必要である。理想は、学生の入学から卒業まで 1 つのデータベースで管理し、目的別・用途別にフォーマットを設定して出力できるようにするのがベストである。しかし、実態は在籍管理、成績管理、就活状況管理と目的別に複数のデータベースが存在し、それぞれを管理しなくてはならないため、管理が煩雑なうえデータベース間の齟齬を修正するための手間も生じている。また学生の出席管理は未だ出席簿によるアナログ入力のため、その管理のために膨大なマンパワーを割いている。過去に何度か出席管理システムの導入を試みたが、通常授業・特別授業など、本校の授業の設定が複雑で、システムが組みにくいこと、東京地区の姉妹校、全国の姉妹校との調整が困難であることから、頓挫してきた。現在は Teams 等の環境も充実しているので、今あるリソースを使って、本校単体で一元管理できるシステムの導入を計画・検討する。

3) 教育活動

教職員の研修体制が不十分である。指導力の修得・向上のための研修は学内でカバーできるが、専攻分野における実務に関する研修は、費用面・時間面でフォローするといった体制が必要である。研修の受講のために必要な費用を補助する、研修の受講のために必要な時間を勤務時間として認めるといった対応を法人として整備してもらう必要がある。

4) 学修成果

創立 60 年を迎える学校で、膨大な卒業生がいるにも関わらず、そのネットワークを有効に活用できていない。校友会組織も、今後は法人単位での運用になるため、学校単位での活動・運用は困難になる。これまでのやり方とは異なる方法で、卒業生との繋がりを模索する必要がある。

5) 学生支援

家庭内にトラブルを抱えた学生が多く、その原因を探っていくと保護者が精神的なトラブルを抱えているケースも少なくない。学校としてはスクールカウンセラーの常駐時間を増やす等の対応は取っているが、家庭内の環境が改善されなければ、解決は難しい。学校としてどこまで改善を図るべきかガイドラインの策定を検討。

6) 教育環境

長らく懸案事項だった各校舎のトイレの整備が本年度を全て以て完了した。学校関係者評価委員会より指摘を受けてから4年かかったが、単年度の予算では改善が厳しい場合は、今回のような数年単位での長期計画で改善案を策定する。学校図書については、講師、卒業生、企業からの寄贈も受け入れも検討の余地あり。

7) 学生の受け入れ募集 8) 財務

特記事項なし

9) 法令順守

個人情報保護について、基本的な知識を習得するための研修と、個人情報取り扱いの学校としてのガイドラインが必要。

10) 社会貢献・地域貢献

本年度より新たな取り組みとして生涯学習の一環として、一般の方を対象とした講座を開講。第1弾としてフィギュア製作講座を実施し、好評のうちに終了した。こういった取り組みは継続して行うことが重要なので、次年度以降も実施を検討する。講座としては、引き続きフィギュア製作講座を候補とする。

11) 国際交流

留学生受け入れの適性校として認定を受けているが、留学生数の増加に伴い急増する業務量に対して、スタッフの人数が足りていない。専門的な知識とスキルを持ったスタッフの補充が必要。

以上

専門学校東京デザイナー学院 学校自己点検・自己評価委員会

委員長	竹田	卓司
副委員長	古田	千明
委員	久坂	奏
	田中	新兵
	小田切	多喜
	田辺	啓太
	田畑	風音
事務局	有賀	史彦